グリップヒーター取り付け用 KIT 取扱説明書

適応車種：TACT（AF75）/ DIO110（JF58）

このたびは本製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。ご使用の前に、本書をお読み頂き、いつも手元に置いて、正しい取扱方法により永くご愛用くださるようお願い申し上げます。

■販売店様へ この取扱・取付説明書は、必ずお客様にお渡し下さい。
■お 客 様 へ この取扱・取付説明書は、必ず保管してください。

安全上の注意事項

必ず取扱説明書に書かれていることを厳守して作業を行なって下さい。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

1.製品包装のビニール袋は，子供や幼児がかぶったり吸い込んだりしないよう、手の届かないところに片付けるか、廃棄処分すること。（窒息の危険があります。）
2.各取付ボルト及びナットは、規定トルクを厳守し、締め付けること。（ボルト及びナットの破損や緩みの原因となり、部品の脱落等によって怪我や、死亡事故につながる恐れがあります。）
3.エンジン始動する場合、換気の良い場所で行うこと。（排気ガスにより、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
4.エンジン回転中や停止後しばらくの間は、**マフラーは高温になっています。**
・絶対に近くにガソリンなどの危険物や、燃えやすい布などを置かないこと。（火災の原因になります。）
・絶対に人や動物などが触れない場所にとめ、触らないようにすること。（火傷の原因になります。）
5.構造上最低地上高が低くなる場合がある為、マフラーを接地させる無理な運転操作や段差等でマフラーが擦らないよう注意して下さい。（マフラーを接地させるような運転を行うと、転倒による怪我や死亡事故につながる恐れがあります。）
6.法定速度を守り安全運転をすること。（転倒による怪我や死亡事故につながる恐れがあります。）
7.マフラーが、フレームやオイルライン等に干渉したままエンジンを始動したり，走行しないこと。（火災の原因や、転倒による怪我や死亡事故につながる恐れがあります。）
8.本書は、国家検定整備士資格を持った方を対象にしています。整備士資格をお持ちでない方は、信頼のおけるお店に取り付けを依頼して下さい。

⚠注意

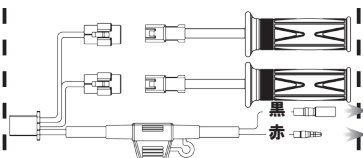
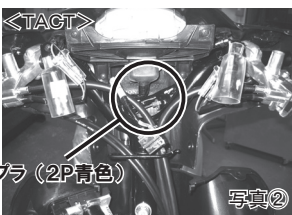
この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が障害を負う可能性が想定される内容及び、物的障害の発生が想定される内容を示します。

1.指定車種以外の装着は行わないこと。（製品の機能が損なわれ、故障等の原因になります。）
2.製品を分解、加工、改造をしないこと。（製品の機能が損なわれ、故障等の原因になります。）
3.エンジンが冷えてから作業をすること。（エンジンが熱い状態で作業をすると火傷の原因になります。）
4.水平な場所で車体を安定させて作業を行うこと。（作業中オートバイが倒れて怪我をする恐れがあります。）
5.作業する時は怪我防止の為、作業手袋を着用しエッジ部に気をつけて作業行なって下さい。（エッジ部はバリ等がある可能性がある為、手など切ったり怪我をしないよう注意して作業を行って下さい。）

●接続する前に

車両のサービスマニュアルを参考にしてハンドルカバーを取外します。（写真①、写真②）
グリップヒーター用カプラ（青色）を確認して、巻いてあるビニールテープを剥がします。

①配線の接続について（図①）

グリップヒーター側ハーネスのギボシと接続ハーネスのギボシをそれぞれ接続します。
このとき、左右グリップ、スイッチを仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。問題無ければ、一度、グリップとスイッチは外します。

図①

写真①

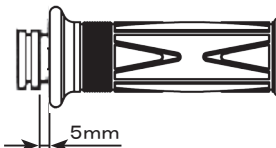
写真②

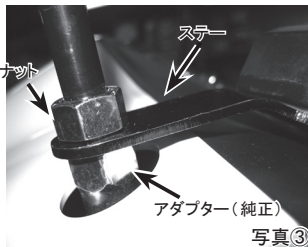
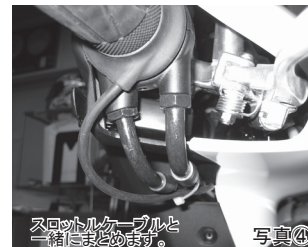
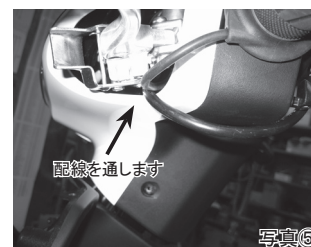
グリップヒーター取り付け用 KIT INSTRUCTIONS MANUAL 取扱説明書

②左右グリップの取り付け

左右それぞれの純正グリップを取外します。純正グリップが付いていたところに付着しているボンドをパーツクリーナーなどできれいに取り除きます。グリップヒーターの配線位置を間違えないようにグリップヒーターを差込みます。このとき、グリップが手で触って暖かいくらいまで仮組みで暖めておくと差込み易くなります。また、右グリップは下図のようにスロットルパイプとグリップ間が5MMくらいになるようにして下さい。

左右のグリップ共にグリップから出ている配線の位置を確認してから取付けして下さい。また、右側はスロットルを回した時に配線には絶対負荷がかからないようにして下さい。グリップから配線が出ている部分は弱く、断線して破損してしまう恐れがあります。

≪右グリップ≫

図②

●注意●
グリップヒーターを取り付ける際に、グリップヒーターのエンドをハンマーで叩いたり、グリップを強くねじったりしないで下さい。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないで下さい。また、仮組みでグリップを暖める際に **1 分以上**は暖めないで下さい（**特に右側**）。内部が変形してしまい、熱線が出てきてしまう恐れがあります。
※右側グリップはスロットルを全開にした時に、グリップから出ているケーブルに負荷がかからないように取付けて下さい。

写真③

写真④

写真⑤

③スイッチ部の取り付け

付属のステーをミラー取付け部を使って固定します。（写真③、⑥、⑦）
→このとき、ハイビームスイッチの操作の邪魔にならない位置にクランプして下さい。
また、DIO110の場合にはハイビームスイッチが邪魔になるので、写真⑦のように、若干外側に向けて固定して下さい。

写真⑥

④配線のまとめ

それぞれの取付けが終わったら、右グリップの配線はスロットルケーブルに沿うように左グリップとスイッチの配線はリアブレーキレバーの下側を通してハーネスのカプラーに接続します。（写真④、⑤）
→左側グリップの配線とメーターの配線はあらかじめカウルの穴が空いている部分を通してから、ハーネスのカプラーに接続します。（写真⑤）

また、配線の長さが余ってしまっている部分はタイラップなどでまとめて固定します。
→ハンドルを左右に動かしてハーネスに力がかかっていないか、ハンドル操作、レバーの操作の邪魔になっていないか、スロットル操作の邪魔になっていないかどうか確認します。

写真⑦

⑤取り付け完了

取外したカウルなども元に戻す前に、イグニッションキーをONにしてグリップヒーターの動作確認をします。問題なく温まったら、カウルを元に戻して取り付け完了です。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。
※当社の取り扱い説明書等､十分ご確認の上ご使用下さい。
※当社製品以外の保証は一切お受けできませんので予めご了承下さい。

●構成部品●
・専用スロットルパイプ・・・1個
・専用ハーネス・・・1本
・専用メーターステー・・・1個
・取扱説明書

・グリップヒーター（スイッチ）の使い方は別紙の取扱説明書を参照して下さい。

有限会社エンデュランス 〒350-0822 埼玉県川越市大字山田1726 TEL 049-222-7770 FAX 049-226-1625

2015.07.17